

資料 ③

第3章 基本構想

第3章 基本構想

1. 施設整備にあたっての基本的な考え方

前段のアンケート及びワークショップ等の整理並びに分析を受けての市民意見と、一般的に必要な機能などの技術的な視点による基本的な考え方、方向性を整理します。

塩田庁舎等に期待する施設や機能として、「行政窓口機能」に加え、「子育て支援機能」、「市民活動機能」、「教育・学習機能」、「伝統・文化・芸術活動機能」、「健康・福祉支援機能」、「出会い・交流機能」、「にぎわい創出・活性化機能」など、総合的な機能が必要であるという結果でした。

塩田庁舎等を取り巻く概況や上位計画における考え方、アンケート結果による利活用の方向性、まちづくりの課題等を踏まえ、塩田庁舎等の利活用の方向性について検討を行いました。その結果、塩田庁舎等の利活用検討にあたっては、地域から切り離して個別に検討するのではなく、地域における構成要素の一つとして捉え、地域へいかに貢献するかという観点から検討すべきであり、利活用の方向性としては、多くの人が集まり交流するような賑わいをつくることが重要と考えられます。

現状から見える課題の整理と対応

- 行政窓口機能は、より質の高い行政サービスを検討
- 子どもの遊び場や学習の場など、子どもたちが集える空間整備を検討
- 多様化する交流機会の創出を検討
- イベントや催し物などの機会を増やし、施設自体の利用促進を検討
- 財政負担の軽減を図るための、施設機能の複合化・多機能化による施設サービスの向上を検討
- 地域住民の高齢化に伴うコミュニティ活動の低下や、人口構成の変化に伴う市民ニーズの変化に対応した公共施設サービスを検討
- 耐震性の問題、老朽化や設備機能が不十分であるなど、十分な施設サービスを提供できていないことが懸念される施設の解決策を検討
- 公共施設として必要な設備（多目的トイレ、エレベーター等）だけでなく、各施設が提供するサービスに適した設備を検討
- 施設は、地域の拠点として、多世代の市民が気軽に集え・利用でき、コミュニティ活動の場・情報交換の場となる施設として整備を検討
- 自動車を交通手段とする利用者が多いことから、駐車スペースや駐車台数を考慮して検討
- 市民が利用できる会議室やフリースペースを整備するとともに、生活利便性の向上のために売店や飲食店等の併設を検討
- 利用者にとって同施設内に様々な機能を配置することによるメリットもあることから、ハード・ソフトの両面からの整備を検討
- まちの情報を取り扱う機能等を導入する等、市の情報発信と併せて地域課題を解決するきっかけとなる拠点としての整備を検討

2. 基本理念

前項の基本的な考え方の整理を受けて、行政窓口機能の継続や教育、賑わい、福祉、観光といった、基本構想の理念について、それぞれの視点ごとに、そのあり方を整理して基本理念を設定します。

塩田庁舎等をとりまく概況や上位・関連計画における考え方、市民意見等を踏まえ、利活用の方向性を考える上での基本理念を以下のとおりとします。

基本理念

人と人がつながり、つながりつづけていく地域
塩田地区の新たな賑わいの創出

【 賑わいの方向性 】

■ 生活の頼りとなり、日常的にひとが集まる「つながり」・「賑わい」

行政サービスの充実や、さまざまな情報発信とイベントスペースの創出により、多くの人を呼ぶことができる施設・内容を目指します。

■ 憩い・交流の場としての「つながり」・「賑わい」

塩田地区内に、ほっとできる憩いの空間をとって整備し、子どもから高齢者まで、多世代の人々の交流を促進する機能を目指します。

■ ひとや文化を育む拠点としての「つながり」・「賑わい」

塩田地区の歴史・伝統との連携や、文化・生涯学習施設、多彩な文化事業のほか、市民の生涯学習活動にも対応した施設とすることを目指します。

3. 活用の基本方針

長い間市民に親しまれている塩田庁舎及び周辺公共施設であることから、近隣の住民の生活拠点のよりどころはもとより、他市からの来訪者を呼び込めるような空間とし、子どもから高齢者まで、多世代の人々がその空間で憩い・交流することを中心とした「つながり」・「賑わい」を創出します。

行政サービスや市民の活動・交流機能などの集積を図り、賑わいの拠点を形成する「にぎわい拠点ゾーン」の核となる施設の一つとして、関連するサービス機能等の集積を図りながら日常的な来庁者を増やす「つながり」・「賑わい」の創出を目指します。

基本方針

■ 気軽に「集う」「憩う」場

文化芸術や生涯学習にあまり触れることのない市民でも「行ってみたい」と思えるような、集い、遊び、憩いのある空間や機能を設けます。また、ふらっと訪れた人々が「ちょっとやってみよう」と気軽に参加して楽しめる体験型の事業も多く提供します。個性ある塩田の文化を「創りだす」、「発信する」場、それぞれの諸室の機能を活かし、運営面でも工夫をして、塩田でしか観られない、体験できない個性ある事業を楽しめるようにします。また、継続して個性的な事業を展開し、塩田の魅力を発見・発信する場となることを目指します。

■ 多様な生涯学習を通じて「学ぶ」「育む」場

公民館機能を活かし、市民の学びを育み、地域の課題解決等に寄与する講座等の提供、様々な活動の場となることを目指します。

■ バリアなく「出会う」「触れ合う」場

世代や居住地の異なる市民、障がい者、外国籍住民など、誰でも訪れやすい施設やサービスの提供や鑑賞・体験等ができる事業の提供を通じ、物理的なバリア、心理的なバリアを取り払い、多くの人が出会いや交流を生み出すなど、住民ひとりひとりが地域の一員として支え合える場となることを目指します。

■ 未来につながる文化芸術の担い手を「育てる」「継承する」場

市内の文化芸術団体や、文化芸術関係の部活動のスキルアップの機会の提供、文化芸術を支える人材の育成を推進し、多様な文化、郷土の歴史等を未来につなげていく持続可能な体制・環境づくりを目指します。

4. 施設の新たな役割

設定した基本理念及び基本方針を踏まえ、塩田庁舎及び周辺公共施設の新たな役割や機能について、その施設の役割・位置づけやコンセプトを設定します。

塩田地区の生活・行政サービスの拠点としての機能はもちろん、子育て・教育、文化面で、市内全域から人々が訪れ、「以前よりすごく便利」、「行ってみたら楽しかった」、「また行きたい」と感じられる施設づくりから始めます。そのうえで、日々の生活への安心感と、文化芸術や生涯学習を通じた「学び」、「育み」、「触れ合い」を提供し、文化や学びに触れていく環境づくりを図ることで、多くの市民が集まり、楽しむ拠点として賑わい、他にない「塩田らしさ」を体現する文化と人の交流の場となることを目指します。

【基本構想コンセプト（案）】

地域の魅力が創出され、世代を超えた地域交流拠点

コンセプト

■ 生活拠点の軸となる施設（地域）

各種拠点機能（行政サービスによる生活拠点、子育て支援、生涯学習、産業振興、市民交流、情報発信）を持たせ、常時利用者が出入りし、賑わいや魅力が創出される中枢拠点として施設（地域）を目指します。

■ 文化芸術が身近に感じられる施設（地域）

塩田津を中心に、住民に趣味等の気軽な楽しみ方や日常生活を充実させることができる“居場所”と思われる塩田地区の中心的施設（地域）を目指します。

■ デジタルと新しい生活スタイルで新たな魅力を生む施設（地域）

機能連携による公共サービスの質を高めるとともに、効果的な施設運営（公設民営、市民主体の施設運営等）に取り組みます。各施設への Wi-Fi の設置や SNS など、様々な情報伝達手段の活用により、行政情報などが利用者に届く仕組みや利用しやすい施設運営に取り組み、新しい生活スタイルを支える魅力ある施設（地域）を目指します。

■ 子育て・福祉へのサポートが充実した施設（地域）

子育て世代、高齢者及び障がい者等への支援サービスの充実を図り、いつでも気軽に訪問できる施設（地域）を目指します。また、健康・子育て支援など、利用者同士の情報交換や交流を促進する機能を目指します。

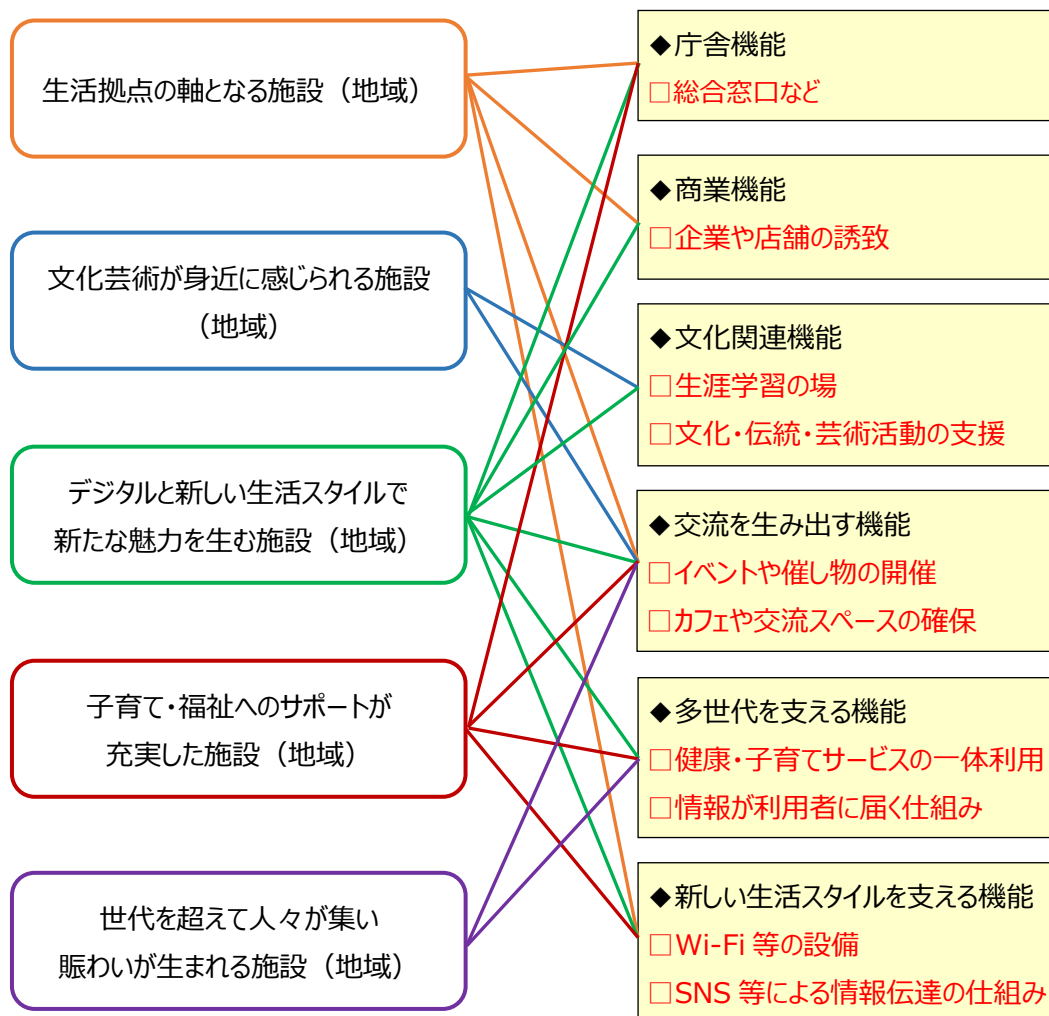
■ 世代を超えて人々が集い、賑わいが生まれる施設（地域）

共用スペースを中心として各機能を配置することで、子どもから大人までの市民が顔を合わせられる施設（地域）を目指します。

5. 導入機能イメージ

基本構想において導入の対象とする機能のイメージについて、コンセプトを踏まえ以下に示します。

ここでは公共と民間の別なく、施設として導入が想定できる機能を例示し、今後の市場調査等を踏まえ、公共機能と民間機能の区分を今後示していきます。



6. 基本計画に向けて

本基本構想では、塩田庁舎等利活用のコンセプト、必要な機能についてとりまとめました。今後は、利活用の具体化や実現に向けた事業化の検討を踏まえ、塩田庁舎等利活用における諸室・設備の概要や施設の運用方針、提供サービスの概要などを基本計画としてとりまとめています。

基本計画の検討については、塩田庁舎及び周辺公共施設の一体的な整備に加え、リバティや楠風館など類似・代用機能を持つ施設も含めた総合的な機能再編の検討も必要であることから、行政だけではなく民間活力の導入による事業の検討なども重要となってきます。これらのことから、塩田庁舎等の利活用では、民間事業者との対話を重ね、そのアイデアやノウハウ、資金を活用することによるサービスの向上やコストの削減など、公民連携という事業手法についても視野に入れていきます。